

スマトラ沖地震による津波被災地で救援活動に参加した国際医療援助団体AMDA（アムダ、アジア医師連絡協議会）沖繩支部の大城七子看護師（右）が二日、県庁で記者会見し、現地の惨状を報告した。「蚊が多くマラリア発生が予想される」と懸念。「困ったときはお互いさま。できることを少しでも」と、県民の支援を呼び掛けた。

## AMDA大城看護師が報告

沖繩セントラル病院に勤める大城さんは先月十六日から二十八日の十三日間、津波被害が最も大きかったインドネシア・アチエ州バンダアチエで活動した。

発生から数週間がたつても遺体が点在し、悪臭が立ち込める。「想像もできない状況にショックを受けた」。大城さん自身も体調不良に悩まされつつ、時に徹夜で医療救援活動にあたった。

# 「ぞうり不足」支援求める 破傷風での死亡多く

スマトラ沖地震  
被災地

「ぞうり」。はだして歩かざるを得ず、破傷風で死亡する人が多い。医師が死亡し、持病の治療が受けられないなど「行政からもNGO（非政府組織）からもこぼれてしまう二次被害」の救済にも力を入れた。

帰国の際には、現地の看護師から「今度沖繩で何かあったら私たちが行く」と声を掛けられ、感激した。「困ったときはお互いさま」というのがAMDAの精神。本当にうれしかった」と、この時はかりは笑顔を浮かべた。

岡山市の本部から来県した菅波茂理事長は、第二回



スマトラ沖地震の救援活動を報告する大城看護師と菅波理事長、大仲支部長（左から）県庁

## マラリアも懸念

沖繩平和賞の副賞一千万円を一時的に救援活動に充てたことを報告。「県民のお金で沖繩からの世界平和発信ができた」と謝意を示した。

同席した沖繩支部の大仲良一支部長（沖繩セントラル病院院長は、今後、いつでも人を出せる態勢をつくっていきたい）、支援活動を強化する考えを示した。

稲嶺恵一知事もこの日コメントを出し、「平和賞の趣旨にも通じ、非常に意義深い」と活動を称賛した。